

2008年9月24日
東2号館202号室

法学科 特設演習（法と政治）
政治学科 特別演習（法と政治）
シラバス

■担当教員

法学科 橋本陽子（代表）、紙谷雅子、草野芳郎、龍岡資晃
政治学科 福元健太郎

■授業の目的

法と政治の世界について、法学科と政治学科、双方の教員と学生が一堂に会して、複眼的に検討する。これまで一面的に観察してきた社会現象の、新たな切り口を見いだすことが目的である。法と経済学や統計分析などの手法も取り入れる。

■授業内容

各回、法学科教員1人と政治学科教員1人が担当する。教材はこちらで用意する。なお教材変更の可能性もある。

9月24日 概要説明

<龍岡、福元>

10月1日

竹田昌弘『知る、考える 裁判員制度』（岩波書店、2008年）

10月8日

『世界』2008年6月号「特集 裁判員制度 何が変わるか」（座談会、後藤論文、フットのインタビューが必読、豊、笹田、田島の各論文は余裕があれば読むこと）
同7月号「裁判員制、是か非か（下）」250-64頁（必読）

10月15日

『刑事法ジャーナル』9号（2007年）「犯罪被害者保護と刑事手続」特集（奥村・山本論文については、必読ではなく、参考文献）

<橋本、福元>

10月22日

大竹文雄・奥平寛子「個別労働紛争の決定分析」『日本労働研究雑誌』548号（2006年）、4-19頁

10月29日

三浦まり「連合の政策参加」中村圭介・連合総合生活開発研究所編『衰退か再生か：労働組合活性化への道』（勁草書房、2005年）、169-92頁
増山幹高「立法における変換 vs 態度表明：国会審議と附帯決議」『レヴアイアサン』38号（2006年）、131-53頁

11月5日 労働組合と政治

久米郁男『日本型労使関係の成功 戦後和解の政治経済学』（有斐閣、1998年）、序章、第1、5章、終章

<紙谷、福元>

11月12日

戸松秀典『憲法訴訟 第2版』（有斐閣、2008年）、第4編

11月19日

東川浩二「『合憲の』人種的ゲリマンダリングを定義する：最高裁が語らなかった合憲性の基準」『選挙研究』19号（2004年）、73-83頁

11月26日

紙谷雅子「大学とアファーマティヴ・アクション」『アメリカ法』2004-1号、53-68頁

<草野、福元>

12月3日

『司法制度改革審議会意見書』Ⅱ第1、Ⅲ

12月10日

ダニエル・H・フット（溜箭将之訳）『名もない顔もない司法』（NTT出版、2007年）、序、1～3章

12月17日

フット『名もない顔もない司法』、4～6章、終章

■成績評価の方法・基準

成績は、出席50点、レポート50点を満点として、評価する。レポートは、法と政治の接点に位置する問題で、かつ授業で扱ったテーマとは異なるテーマで書く。単位取得要件は、点数が50点以上であること、欠席日数が3分の1未満であること（学則第45条）、レポートを提出すること、である。